

## 平成 29 年度地域課題研究助成の報告

## 1. 研究課題題名

Family Centered Care による母親の変化

## 2. 研究代表者及び所属

水澤香澄 長岡赤十字病院 NICU 病棟

## 3. 研究メンバー

水澤香澄<sup>1)</sup> 小林宏至<sup>1)</sup> 北村千章<sup>2)</sup>

1) 長岡赤十字病院 NICU 病棟 2) 新潟県立看護大学

## 4. 学内責任者

新潟県立看護大学 北村千章

## 5. 研究経費執行額

|         | 旅費     | 報償費 | 役務費    | 需要費   | 合計     |
|---------|--------|-----|--------|-------|--------|
| 執行額 (円) | 34,524 | 0   | 55,479 | 9,680 | 99,683 |

## 6. 研究の概要

Family Centered Care(以下、FCC)は多くの施設で進められ、先行研究においても、母親の育児への自信につながる可能性や、子どもへの愛着形成が促進されることが報告されている。一方で FCC による母親の育児、ケア参加に対する思いを調査した先行研究は見当たらない。本研究では、FCC を通じて母親が主体性をもって育児を行っているのかをインタビューし、その場面や心情の経過を明らかにした。6 名の対象者にインタビューを行いその内容を分析し、57 個のコード、18 個のサブカテゴリー、7 個のカテゴリーに分類した。この結果から早産を経験した母親は、初めて子どもに触れることに抵抗感や恐怖心を抱くことは少なく、むしろ触れたいと望んでいて、何かをしてあげたいと思っているが、自分に何ができるのかわからないという戸惑いを抱いていることが明らかになった。

看護師が母親に情報を提供し、ケア参加を促し支援することで、母親は育児ができる喜びや母親としての自覚をもてるようになり、さらに、子どもとの関りを繰り返すことで、主体性を持って育児を行っていると感じるようになる。また、自責の念をもつ母親や、早産を経験した母親は、早期から子どもと関わりをもつことで、自責感情は喜びに転換することも明らかになった。

以上のことから、母親が育児に自信をもてるようになるためには、看護師の介入が必要であり、FCC を継続していくためのスタッフの理解と教育が重要であることが示唆された。

## 7. 今後の学会発表予定

- ・有 (H30 年度 新生児看護学会)